

1月例会「初春・食べられる野草探検」報告

平成31年1月20日(日) 午前10時～12時30分、立田山野外保育センター雑草の森。立田山野外保育センターとの共催。参加者26名(会員13名)。

当日は「大寒」にもかかわらず最低気温は7度と暖かかったものの、前日夜からの雨が残る残念な天気。いつもより参加者が少ない月例会となりましたが、それでも1歳から6歳までのチビ子7名が参加して賑わせてくれました。

始まりの会で藤井会長のあいさつ、緒方センター長のあいさつの後、紙芝居「立田山の春を待つ生き物たち」を見て、小鳥やモグラ、樹木の冬芽、植物の口ゼットなど、厳しい寒さの中でたくましく暮らす生き物たちの姿を勉強。続いて紙芝居「立田山の春の食べられる植物」で、ノビル、ヨモギ、ナズナ、ハコベ、タンポポなどのこれから観察する草花、採集して来て欲しい野草の勉強をしました。「去年は食べられる野草12種を採集し、ダイコン、カブを加えて14種入りの七草がゆを食べました。今年は15種入りの七草がゆが食べられるよう野草探しをがんばりましょう」と聞き、参加者にも気合が入ります。

10時40分には雨もあがり、参加者はいざ七草探検(野草採集)に出発です

センターを出て市民農園の横を通り、立田山憩の森を抜け、サクラ池まで、濡れた道路で滑らないように注意しながら「食べられる野草」を探します。大人も子どもも、ヨモギやノビル、スイバなどを見つめるたびに大喜びです。なんと卵を産むために水辺に現れたアカガエルにも遭遇。サクラ池上流の湿地ではセリを探します。セリ発見。一緒にタンポポやカラスノエンドウなどもゲットしました。

約1時間後、子ども達は採集した野草を入れたビニール袋を携えてセンターに帰着。さっそく自然観察指導員に採集した野草の名前を教えてください。「これはノビル、食べられます」「これはアザミの若葉、食べられます」と聞いて嬉しそうです。少しずつ七草がゆの具材として提供。セリ、ナズナ、ハコベ、タバコ、ハハコグサ、ミツバ、オオバコ、スイバ、ヤエムグラ、カラスノエンドウ、ノビル、タンポポ、アザミの野草13種が七草がゆに入ることになりました。

待ちに待った七草がゆの試食タイム。厨房で、スタッフが持参したダイコン、市民農園から提供して戴いたカブに13種の採集野草を加えて15種入りの七草がゆを調理。参加者はお餅をドラム缶コンロで焼いたら器に入れ七草がゆを注いでもらいます。みんな「美味しい」と何杯もおかわり。スタッフの「味付けは塩だけです」との説明に「お塩だけでもすごく美味しい」とお母さん。みんなニコニコ顔で「早春の恵み」を味わいました。

正午過ぎ、厳寒の冬を生き抜く立田山の「野草たち」に元気を分けてもらいながら、今年最初の月例会は無事に終了。寒さ厳しき折ながら春はもうそこまで。今年もどうぞよろしくお祈りします。

最後になりましたが、調理をお手伝いいただいた竹原さん、池田さん、お世話になりました。カブを提供していただいた市民農園の方、足元の悪い中で参加幼児を抱きながらお世話していただいた長峰さんにもお礼申し上げます。

